

平成 29 年度 第 2 回 西宮市公共事業評価委員会

春風小学校教育環境整備事業

(事前評価)

議事録

開催日：平成 29 年 7 月 24 日（月）

開催場所：西宮市役所 441 会議室

(西宮市六湛寺町 10 番 3 号)

平成 29 年度 第 2 回 西宮市公共事業評価委員会

1. 開催日時

平成 29 年 7 月 24 日（月） 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

2. 開催場所

西宮市役所 441 会議室
（西宮市六湛寺町 10 番 3 号）

3. 対象事業

春風小学校教育環境整備事業（事前評価）

4. 出席委員

- (1) 会 長 西井 和夫（流通科学大学 経済学部 教授）
- (2) 副 会 長 吉田 有里（甲南女子大学 人間科学部 准教授）
- (3) 委 員 上村 敏之（関西学院大学 経済学部 教授）
- (4) 委 員 鈴木 利友（武庫川女子大学 建築学科 准教授）
- (5) 委 員 室崎 千重（奈良女子大学 生活環境学部 講師）

5. 出席者

《担当課》

教育委員会 教育総括室 学校施設計画課

係 長 半田 泰規

副 主 査 前中 千紗

《事務局》

政策局 財政部

部 長 荒岡 晃彦

政策局 財政部 政策経営課

課 長 反田 信一

係 長 武林 秀孝

主 事 吉本 直人

6. 議事録

《挨拶、委員紹介》

- 事務局 今回の評価対象事業は、「春風小学校教育環境整備事業」です。
本日は事業概要の説明および質疑応答を行った後、委員の皆様にご審議いただき、委員会の総合判断を取りまとめていただきたいと考えております。
- 会長 審議に入る前に会議録の署名委員を選出します。本委員会の運営要領第5条では、会長が署名委員を指名することになっていますので、本日は鈴木委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
- 委員長 わかりました。
- 会長 次に、本日の委員会の公開、非公開についてお諮りします。本事業は特に非公開とする理由もありませんので公開としますが、よろしいでしょうか。
- 委員一同 (異議なし)
- 会長 本日の委員会は公開とします。傍聴を希望する方はいますか。
- 事務局 いらっしやいません。
- 会長 それでは、事業概要の説明をお願いします。

《担当課による事業概要の説明》

- 会長 委員の皆様からご意見・ご質問等をお伺いしたいと思います。
- 委員 ランチルームは休日等でも利用しやすいように地域への開放を検討するとありますが、具体的にどのように運用していくのでしょうか。
- 担当課 地域団体による会議等への利用を想定しています。ただし、学校関係者でない者が自由に校舎に立ち入りできないように、専用の通用門を設け、シャッターで動線を制限するなどの工夫を検討しています。
- 会長 これは基本計画で掲げられている「地域に根ざした学校づくり」の一環として生まれたアイデアだと思いますが、今のご説明では、ランチルームを設けることで地域交流が生まれ、結果的に地域に根ざした学校づくりに繋がるという後付けのロジックに聞こえてしまいます。「どこに主眼を置いて、どの程度まで地域に根ざした学校づくりを進めるか」という基本的な考え方を先に示した上で、具体的なアイデアを検討し、説明する必要があるかと思います。
- 委員 資料2のP3に児童数・学級数の今後の推移が記載されていますが、1学級の児童数は何名を想定しているのでしょうか。
- 担当課 本市では1学級の児童数を1～4年生は35名、5～6年生は40名で計算しています。
- 委員 資料5のP2にも学級数の推計がありますが、資料2のP3と数値が異なっているのはなぜでしょうか。

担当課 資料2は基本計画を策定した平成28年度時点の推計です。一方、資料5は直近の人口推計に基づいており、長期的に学級数が減少していくこちらが現実的と考えていますので、将来発生すると思われる空き教室の活用について現在検討しています。

委員 学級数のピークは、基本計画時点で33学級、直近の推計で31学級となっておりますが、下振れしたということでしょうか。

担当課 学級数は、計算上の端数の関係で上下に振れる可能性があるため、本事業においては34学級を設ける計画としています。

会長 春風小学校に限らず、学級数はピークを過ぎた後は減少せざるを得ないと思いますが、担当課意見にもあるように、将来的に柔軟な対応ができるようなハードデザインが求められると思います。

委員 津波が昼間に発生した場合、全ての児童が避難できるスペースが確保される計画となっているのでしょうか。

担当課 現在、690人が避難可能であるのに対し、本事業では約3,000人の避難を可能とする計画であり、本校児童のほか近隣住民の避難も想定しています。

委員 屋上への津波避難階段は、常に使用できる状態になっているのでしょうか。

担当課 有事の際には、階段の破壊錠を使用することを想定しています。

会長 事業計画の必要性の根拠として、校舎の老朽化が著しいとありますが、事業実施の背景となる問題・ニーズの欄には、教室不足や運動場面積の不足が老朽化よりも先に記載されています。これは昭和30年代築の現校舎がまだ耐用可能ということでしょうか。

担当課 現校舎は耐震補強がなされており、一定の構造耐力は備えています。また、市内には他にも昭和30年代築の学校があることも事実です。しかし、本校の場合は、仮設教室が8教室と多く、運動場に設置している状況を鑑み、教育環境が満足でないことを問題視しています。

会長 では実施根拠として示されている「優先度の高い学校」とは、何に基づいて決定されているのでしょうか。本校の運動場面積が他の学校に比べて絶対的に小さいということでしょうか。

担当課 優先度は建築年数や劣化状況と併せて、教室や運動場の不足など教育環境の整備状況等を総合的に判断して決定しています。本校の場合は、文部科学省が定める小学校設置基準における「児童1人あたりの運動場面積」である10㎡を下回っている状況等を踏まえ、事業の必要性を認識しています。

会長 それでは本事業においては、老朽化および教室不足・運動場不足が並列の課題であり、事業の必要性や合理性の根拠となっていることを評価シート上で示していただきたいと思います。

会 長 本事業では留守家庭児童育成センターの整備はどのように位置づけられているのでしょうか。

担 当 課 現在設置されている同センターは、建物の老朽化が見られるうえ、利用児童数も定員一杯となっていますので、本計画に併せて整備する計画としています。基本計画における位置づけとしては、今後利用児童数の増加が見込まれる同センターについて、施設の有効活用を図るため、学校施設と併せて増改築を行うこととしています。

会 長 本校舎の整備と一体の事業として実施したいのであれば、同センターの規模や形態、コンセプトなどについて別途説明が必要であると思います。

会 長 事業計画の合理性について、「他の案」と比較した評価結果が記載されていますが、「他の案」とは具体的に何を指すのでしょうか。

担 当 課 ここでは現地建替や長寿命化を指します。これらの案について検討しましたが、南校舎棟の2階部分に廊下がない古い建築形式であるため、車椅子での教室移動が困難であることや、運動場面積が不足していることなどの現在抱えている課題の解決は難しいという結論に至ったため、1次評価のとおりとなりました。

会 長 評価シートには事業を実施しない場合の懸案事項等の欄がありますので、合理性の主な根拠の欄には、現地建替や長寿命化などの案と比較した結果を記載してください。

会 長 それでは2次評価を行います。
はじめに「事業の目的・効果等に対する評価」ですが、事業の目的・内容については、これまでの意見および質疑応答の内容を踏まえ、適当と判断してよろしいでしょうか。

委員一同 (異議なし)

会 長 提案・留意事項としては、「将来的に予想される空き教室の活用について、設計段階で十分検討すること」を付け加えたいと思います。

会 長 次に環境効果について、新環境計画に係る目標・施策としては、学びあい、温暖化防止、生物多様性、快適なまちを挙げていて、効果は環境学習の展開などとなっています。これは太陽光発電設備などの設置が事業の中で検討されているということですので、適当と判断してよろしいでしょうか。

委員一同 (異議なし)

会 長 ここでの環境学習とは具体的にどのようなものでしょうか。

担 当 課 太陽光発電設備について、児童が発電量を見ることができる仕組みを検討しています。

委 員 環境学習の具体例のほか、近隣住民への配慮についても評価シートに記載すべ

きかと思えます。

会 長 では次に経費・効果についてですが、スケジュールに記載されている運動場の整備はいつ頃完了するのでしょうか。また、工事着手を早めるのは難しいでしょうか。

担当課 詳細検討はまだ行っていませんが、平成34年度の1学期を目処に事業を完了させたいと考えています。工事の前倒しについては、基本設計・実施設計に多くの時間を要しますので難しいと考えています。

委 員 将来的に空き教室が活用されないのであれば、約42億円の投資の一部が無駄になってしまいますが、今のところどのような利用を想定しているのでしょうか。
担当課 まずは留守家庭児童育成センターへの転用を考えていますが、その後さらに空き教室が増えた場合には、学校運営に支障を来さない用途での活用を検討していきます。

会 長 では経費・効果については適当と判断し、提案・留意事項として「事業目的が着実に達成されるよう、長期的な運営方針を検討すること」を付け加えたいと思えます。

会 長 次に「事業予測・説明責任に対する評価」について、委員会としての見解を検討します。まず事業の必要性について、1次評価では「施設の不備」を根拠として評点100としています。「老朽」の項目には当てはまらないのでしょうか。
担当課 本校の場合は耐震補強がなされており、構造耐力の著しい低下には該当しないと判断しています。

会 長 わかりました。委員会としても妥当と判断してよろしいでしょうか。
委員一同 (異議なし)

会 長 合理性について、事業を実施しない場合、現地建替を実施する場合、長寿命化を図る場合といった「他の案」と比較した結果を委員会として確認しましたので、妥当と判断してよろしいでしょうか。
委員一同 (異議なし)

会 長 事業効果1の位置、規模、構造について、委員会としては前回、プールを屋上へ設置することによるメリットを質問し、運動場面積を確保するためという回答をいただきましたので、見解としては妥当と判断して問題ないかと思えます。

会 長 事業効果2の社会性について、1次評価はBとなっていますが、地域の避難所としての機能のほか、地域に開かれた施設としての利用も検討されていますので、委員会としても評価できると思えます。
環境保全性については、太陽光発電設備や自然採光・雨水利用などの取り組み

が計画されています。

会 長 事業効果3の機能性について、ユニバーサルデザインは法令規定に基づく計画であるということで評価Cとなっています。
防災性は評価Bで問題ないと思いますが、主な取り組み欄で記載がありませんので、地域性の箇所で触れていることがわかるように修正してください。

会 長 最後に反対意見等ですが、計画の見直しを主張すべきポイントや事業に対する懸念・疑問点等は、これまでの審議の中で出てこなかったかと思いますので、なしとしてよろしいでしょうか。

委員一同 (異議なし)

会 長 それではここまで評価を踏まえ、委員会の総合判断としては、「計画どおりの実施が望ましい」としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同 (異議なし)

会 長 総合的な意見としては、やはり将来的に予想される空き教室の活用について、設計段階で十分検討することを附したいと思います。これは他の学校にも言えることなので、市や教育委員会レベルで「将来的な学校運営の基本的な考え方」について方針を示すべきかと思いますが、各事業の評価ということであれば、委員会としては毎回意見を附さざるを得ないと思います。
また、基本計画の「学校づくりの方針」において示されている「地域に根ざした学校づくり」の具体的な内容について検討することも附記したいと思います。
以上でよろしいでしょうか。

会 長 本日の内容は事務局でまとめていただき、2次評価シートおよび会議録にまとめて提出してください。それでは、以上で本日の審議を終了いたします。